



ガバナーメッセージ

山に緑を、幼な児には躰を

国際ロータリー第2750地区 2009-10年度 ガバナー 久邇 邦昭



これは本年度の私のテーマです。この所、時々口にしてはいますが、書くのは始めてです。年度は7月1日から始まっています、他のガバナーの方々はその日から表明してガバナー月信の冒頭に掲げて居られるようですが、私は敢えてそうしませんでした。しかし、暫らく

たって、「どうしてテーマを出さないのか、ないと不安だ、一体どう考えているのか」と数人のガバナー補佐の方々に云われ、遅ればせ昨年11月号の表題としたわけです。

不思議ですか？ 私が会長をやった2001-02年度には『楽しくやろうよ』というのをテーマにしました。何にしようかと迷っていて、皆さんと一杯やった時に、「ロータリーは要するに楽しくやらいいのね」と云ったら、「それだ！それだ！それにしなさい」と云われて『楽しくやろうよ』にしたのでした。その時も少し抵抗があったのですが、つまり、心の底に何かあるのですね。テーマなどと云わず、要するに自然に行動すればいいじゃないかという気持ちですね。皆さん不思議に思われるかしら。

この前の戦争中、或いはその少し前、私の幼少時代に溯ります。その頃は私は子供でよくわからなかったけれど、日本の国民皆がだんだんと熱気にあてられて沸騰してゆくような時代でした。「生命線を断たれる」、「鬼畜米英」、「撃ちてし止まん」、そして日支事変が始まり、中学一年の時に太平洋戦争が始まりました。やれ南京が陥ちた、やれ何だと提灯行列が大波となって私の家にも押し寄せてきました。父は海軍で任地やら戦地やらに居ましたから私が玄関に出て万歳を受けねばなりません。その頃はよくわからなかったけれど、どうして負けるとわかった戦争をやったのでしょうか。米国と日本の生産力の差など国際情勢にも明るい人達も海軍には少数は居たものの、この怒濤のような勢い、群集心理の固まりに抗する事が出来ませんでした。こういう「撃ちてし止まん」の類をスローガンと云いますね。ロータリーのテーマはこれ等とは次元が違いますが、それでもテーマを掲げる事は何か嫌なのです。理解ができないと云われるかも知れません。勿論ロータリーのテーマの意義もわかります。そこで遂に

出す事にしました。一寸語呂がいいでしょう。

このテーマで云いたい事については今迄に時々お話ししたり書いたりして、7月のガバナー月信に「年度を迎えるに当って」という標題で或程度書き、「幼な児には躰を」という部分については9月に新世代月間のガバナー月信に割と詳しく書いたつもりです。又つけ足しを書く事があるかも知れませんが、そこでこの際、あの戦争中の嫌な記憶を甦らせて、如何に考える事、話す事が大切かを強調しておきたいと思えます。

公式訪問でもよく話すことにしているので耳にタコかも知れませんが、よくロータリーで大切なのは親睦と奉仕だと云われますね。正にその通りですが、親睦はどうしたら生まれるのでしょうか。勿論、その人が人柄のよい事、つまり基本的な徳目を身につけている事が大切な事は云う迄ありませんが、自分の考えを適確に話す習慣から生められてくるのではないのでしょうか。何でも話し合う事、相手の考えを心掛けてよく聞く事、そして常に学んで向上する事を心掛ける所に自然と親睦は生まれてくるように思えます。当たり前と思われるでしょうが、こうしていたらあの戦争は避けられていたのかも知れません。

私は英国と米国で数回メークアップをしたことがありますが、何しろテーブルマスターが引切りなしに話しかけて来て、日本の政治経済の他、歴史や習慣やらと質問攻めで、又必ずショートスピーチをやれと云われて参るのですが、こうした話す習慣はやはり子供の頃の家族や学校の教育からも生まれるのではないかと思います。欧米の中学や高校ではデベートの時間というのがあって、クラスをYESとNOの二つに分け、即席のテーマを出して討論させるのです。こうした討論術、いくるめ術というのは弁論術と共に現代社会を生きるには必要な事ではないでしょうか。

人間には闘争本能があるとも云われます。たしかに第2次世界大戦後も局地的な戦争は絶える事なく続いています。だから話し合っても無駄だと云われるかも知れませんが、よく話し合う事、世界中のロータリアンが、殊に討論、弁論が欧米に比べて下手と思われる日本のロータリアンが、もっとも活性化する事が世界の平和の為には大切な事ではないかと思います。

この辺で紙数が尽きたので、続きを来月に書かせてもらおうと思えます。

INDEX

<http://www.ri2750.org/>

▷ ガバナーメッセージ

▷ 寄付報告 / 文庫通信 / 物故

▷ ロータリー財団月間にあたって

▷ 出席報告 / 編集後記

ロータリー財団委員会副委員長 / 年次寄付委員会委員長 高橋 茂樹 (東京世田谷RC)

A mountain needs the green and an infant needs a discipline

Rotary International District 2750

2009-10 Governor Kuniaki KUNI

This is my theme of this year. I often speak it, but this is my first time to write it. The Rotary year starts from July 1st and past Governors expressed the theme at the top of the first Governor's Monthly Letter, but I took leave not to do it. But as time went by, some of past Governors told me that why I didn't express the theme, it felt anxious without expressing the theme and what I thought of the theme. And then I belatedly make the title of this November Governor's Monthly Letter as my theme.

Is it strange? When I was a 2001-02 President of Rotary Club, my theme was 'Let's enjoy Rotary'. I was puzzled what the theme was and when I drunk with Rotarians together, I made the theme as 'Let's enjoy Rotary.' When I told them that we enjoy the Rotary in short, somebody said to me "That is it! That is it! It's your theme"

At that time I had any opposition to it a little, but I had something for it in my mind. So I felt I played the rotary naturally not to make a theme. Is it strange to everybody, isn't it.

During last world war or a little bit before it, let's go back to my infancy. I did not understand it in detail when I was young. But I felt that all of Japanese were getting so mad and coming to a head at that time. When I was a freshman in junior high school, 'break the life line', cruel America and England', 'beat and quit' and the Japan-China Incident broke out and the Pacific war started. So Nanjing was occupied and Japanese lantern parade came to my house as a huge wave. As my father was a Japanese Navy and was always in his place of work or in the front, I was accepted the Banzai (Cheer) at the front door. I did not understand at that time that we made a battle that would be lost. Whether there was somebody in Japan and the Navy who knew the differences of production capacity between the States and Japan, we could not resist against surging force and the mass of mob psychology. This situation is a slogan like 'beat and quit'. The theme in Rotary is dimensionally different from it, so I don't vaguely like to make a theme. I know you can not understand it. Of course I understand the meaning of the Rotary theme, so I finally express my theme.

It looks like a nice ring to it.

I often spoke and wrote what this theme means until now and wrote the 'On the new Rotary year, 2009-10' on the July Governor's Monthly Letter to some extent and the 'an infant needs a discipline' on the Governor's Monthly Letter the New generation in September as the New Generation month in more detail. And I will additionally write about it. At this time I was recurred to the unpleasant memory during that war I think the way how we think and write is important for us.

As I often speak to you at the official visiting, you have heard enough that the important thing in the Rotary is a friendship and a service. This is correct. How is the friendship established? A Rotarian has a good personality, of course and has a fundamental virtue, so they go without saying to you. But these personalities may be established by the customs to speak their own opinion correctly to someone else. I think the friendship is naturally established so that you might speak everything, hear of someone's opinion with open mind well and keep improvement by studying in mind. You think it is no wonder about it, but if we knew them, that war had been evaded.

I have ever made up a couple of times in England and the States and the table master perpetually spoke to me and asked the Japanese economy, history, custom and so on. So they asked me to make a short speech and I think this type of speech custom might be established from the family at the childhood and school education. The European junior high school and senior high school has a debate class and the class is divided from two groups as YES or NO so that the student discusses about impromptu theme. I suppose this type of debate and persuading technique need to live in the present society with the speech together.

We say that the human being has a fighting instinct. After the World War II, the local wars around the world have continues without cease. We say it is no use to talk together, but I think the Rotarians around world, especially Japanese Rotarians who are weaker at discussion and especially debate than the European and American need to talk each other and what we activate more is important thing to make the world peace.

The numbers of papers are run out, so I will write to continue next month.

あなたにとって「ロータリー財団」とは、どんな存在でしょうか？

ロータリー財団は、1917年、アトランタで開催された国際大会において、アーチ C. クランフが「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でよりよきことをするために基金をつくろう」と提案したことに始まり、1928年の国際大会で「ロータリー財団」と正式に名付けられました。このロータリー財団の設立によって、ロータリーは、国際ロータリーの使命を実現する手段を手に入れることができました。

**「ロータリー財団」と聞いたとき、あなたはどんな印象をお持ちですか？**

よく耳にすることは、『よく分からない』『難しそう』と言った言葉です。しかし、ロータリー財団は、本当に分からないことを、難しいことをしているのでしょうか。確かにその仕組みは多少複雑なところもあります。専門の用語を使うこともあります。でも、ロータリー財団が行っていることは、国際ロータリーが掲げるその使命を実行すること、ただそれだけを目的に行っているのです。

もちろん、ロータリアンである皆さんは、国際ロータリーを構成するロータリークラブに属していらっしゃいますので、国際ロータリーの使命はよくご存じのことと思います。ロータリー財団は、国際ロータリーの使命を全うするために、あなたがその使命を実現するためのお手伝いをするために存在しています。ロータリー財団は、決してあなたが属しているロータリーとかけ離れた存在ではありません。むしろ、身近な直結した存在とだけ思っていたらと思います。

もし、ロータリー財団のことを少し理解していただけたら、きっとあなたがロータリアンとして国際ロータリーの使命を遂行していく姿を思い浮かべることができると思います。毎年、ロータリアンの皆さんには、ロータリー財団への寄付をお願いしています。『寄付ばかりさせる』と言われる方がいらっしゃいますが、その人こそ、その寄付と言う行為が、「あなたが国際ロータリーの使命を全うしている」と言うことに気付いていない方なのです。

ロータリー財団では人頭分担金はいただいません。ロータリー財団は、世界中のロータリアンからの寄付によって成り立っています。ロータリー財団は、「シェア・システム」という独自の方法を用いて、その運用益から一般管理費等をねん出しています。総支出に占める奉仕のために使う金額の割合は、他の奉仕団体と比べて、はるかに高い水準を保っています。近年、サブプライムローンやリーマンブラザーズ等の問題によって、投資収益がマイナスになり、財務状況を悪化させていますが、これは含み資産を含んだ収支報告ですので、投資したものを解約して現金化しない限り、確定したものではありません。一時的なマイナスにどう対処していくか、ロータリー財団は、すでに過去の貴重な経験から学んでいます。財務状況については、是非少し長い目で見ていただけたらと思います。

話を元に戻しますが、あなたが行った寄付は、いろいろな形で世界中の奉仕活動に使われています。地区に戻ってきて、地区内の奉仕プロジェクトに使われるものもあります。世界の救いを求めるたくさんの人たちのために使われるものもあります。あなたの身近なところで行うプロジェクトも世界の援助を必要としている国々で行うプロジェクトも、すべてが同じ「ロータリー財団のプロジェクト」です。あなたの寄付は、いろいろな形で世界中の国々で行われているロータリー財団のプロジェクトに使われているのです。つまり、「寄付をする」＝「世界中のプロジェクトに参加する」という式が成り立つ訳です。

11月は「ロータリー財団月間」です。『月間が来たので、寄付をお願いします。』と言うことではありません。寄付は、あなたの心の問題です。強制するものではありません。しかし、あなたがロータリアンであるなら、ロータリーの使命を大切に感じているのなら、この月間が、「あなたが世界中の助けを求める人たちへ手を差し伸べる一つのきっかけ」になればと思っています。

地区ロータリー財団委員会では、卓話のご用命をいただければ、いつでもあなたのクラブにお伺いさせていただきます。そして、「あなたがロータリー財団への理解を少しでも深めていただける」ことを心より願っています。

今後とも、ロータリー財団へのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

米山功労者ご紹介

ご協力を感謝いたします

■ 米山功労者

甲斐 正孝君	東京武蔵府中	2009.9.1	1
河内 保弘君	東京武蔵府中	2009.9.1	1
関沢 潤君	東京世田谷南	2009.9.2	4
岩瀬敬一朗君	東京銀座	2009.9.3	3
鶴浦 典子君	東京銀座	2009.9.3	2
岡本 圭祐君	東京銀座	2009.9.3	3
木村 良君	東京銀座	2009.9.3	2
吉本 喬美君	東京銀座	2009.9.3	6
渡辺 和彦君	東京銀座	2009.9.3	1
山本 和巳君	東京品川中央	2009.9.4	5
塚本 英介君	東京芝	2009.9.7	30
尾関 武男君	東京赤坂	2009.9.7	1
池田 靖光君	東京品川	2009.9.9	5
鈴木 貞男君	東京品川	2009.9.9	4
大山 利雄君	東京世田谷南	2009.9.9	6
鈴木 國夫君	東京八王子	2009.9.9	2
佐々木みどり君	東京世田谷	2009.9.10	1
三富 純一君	東京世田谷	2009.9.10	1
高橋 一義君	東京三鷹	2009.9.15	9
渥美 直紀君	東京銀座	2009.9.17	1
遠藤 彬君	東京銀座	2009.9.17	4
中野 健三君	東京中央	2009.9.28	1
池田征士郎君	東京府中	2009.9.29	1

ポール・ハリス・フェローご紹介

◎はマルチプル ご協力を感謝いたします

西澤 民夫君	東京赤坂	2009.9.4	
林 俊介君	東京中央	2009.9.4	
長濱 毅君	東京中央	2009.9.4	
◎ 宮崎陽市郎君	東京三鷹	2009.9.4	
◎ 榛澤 正夫君	東京井の頭	2009.9.11	
正満たつる子君	東京三鷹	2009.9.18	
千葉 博之君	東京府中	2009.9.18	
池田征士郎君	東京府中	2009.9.18	
小林 淳司君	東京府中	2009.9.18	
笹岡 寛君	東京府中	2009.9.18	
高崎 泰典君	東京府中	2009.9.18	

新ベネファクターご紹介

ご協力を感謝いたします

西澤 民夫君	東京赤坂	2009.9.4
大熊 茂由君	東京武蔵府中	2009.9.4
伊東 照代君	東京麻布	2009.9.11
吉野 良助君	東京三鷹	2009.9.18
松村 信幸君	東京府中	2009.9.18

文庫通信 (265号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

ロータリー情報 — ガバナー月信他から

◎「ロータリーの魅力について」

牧田静二 2009 2p (D.2620)

◎「大連RCの『ロータリー宣言』(大連宣言)について」

岩瀬 均 2009 2p (D.2770)

◎「よねやま雑感」

板橋敏雄 2009 1p (D.2550)

◎「三井報恩会(初代理事長米山梅吉)の結核撲滅と救済援助」

長谷川了 2009 3p (米山梅吉記念開館館報)

◎「概説—我が国に於ける戦前のロータリー運動」

金子秀隆 2009 6p

◎「ロータリーを語る—ロータリー鼎談」

足立功一(コーディネーター) 2009 4p (D.2500 IM報告書)

[上記申込先:ロータリー文庫(コピー/PDF)]

◎「ロータリアンが取り組んだ平和への道標」

坂本俊雄 2009 41・42p

[申込先:レオパトラ FAX (042) 622-7271]

◎「素晴らしい出逢い よき師、よき友は人生の宝②」

戸田 孝 2009 228p

[申込先:D.2660 FAX (06) 6246-2661]



〒105-0011

東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp

開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

【深く哀悼の意を表し御冥福を祈ります】



安田 義雄 (東京大森RC [名誉会員])
2009年9月7日逝去 (享年88歳)
1965年1月25日入会 チャーターメンバー
1980-81年度クラブ会長
ポール・ハリス・フェロー
米山功労者 ベネファクター



金谷 輝雄 (東京南RC)
2009年9月18日逝去 (享年66歳)
1978年6月1日入会
ポール・ハリス・フェロー
米山功労法人



浜尾 光一 (東京世田谷RC)
2009年9月27日逝去 (享年77歳)
1974年2月8日入会
ポール・ハリス・フェロー
米山功労者



森田 左千夫 (東京昭島中央RC)
2009年10月3日逝去 (享年54歳)
2001年3月28日入会
2008-09年度クラブ新世代委員長
ベネファクター



清水 曠喜 (東京中央RC)
2009年10月5日逝去 (享年95歳)
1987年7月1日入会
2004-05年度クラブ会長
米山功労者6回



夢 慧 (東京中央RC)
(本名 渡辺 伸)
2009年10月11日逝去 (享年65歳)
1997年11月6日入会

■ 2008-09年度の物故者 (掲載遅れのため)



牟田 悌三 (東京世田谷RC)
2009年1月8日逝去 (享年81歳)
1974年2月8日入会
1988-89年度クラブ会長
2000-01年度地区職業奉仕副委員長
2000-01年度ロータリーボランティア委員長
ポール・ハリス・フェロー (2回)
米山功労者 (3回)

★国際ロータリー第2750地区出席報告 (9月分)★

District 2750 Membership Attendance Report September 2009

区分	クラブ名	例会	出席率	会員数			区分	クラブ名	例会	出席率	会員数		
				09年7月1日	09年9月末	増減					09年7月1日	09年9月末	増減
千代田グループ	東京南	3	75.72	173	172	-1	多摩南グループ	東京八王子	4	96.19	60	62	2
	東京芝	4	93.27	89	90	1		東京町田	4	72.74	55	55	0
	東京新橋	4	76.42	54	55	1		東京日野	4	78.49	41	42	1
	東京赤坂	3	78.80	47	48	1		東京八王子西	4	92.02	69	70	1
	東京みなと	4	84.50	50	50	0		東京町田・中	4	81.67	38	38	0
	東京レインボー	3	77.78	41	43	2		東京八王子東	4	87.50	28	28	0
	東京麻布	4	73.80	21	22	1		東京八王子南	4	90.09	56	56	0
銀座・日本橋グループ	東京銀座	3	78.78	159	159	0	東京町田サルビア	4	90.47	25	25	0	
	東京日本橋	4	83.87	176	179	3	東京飛火野	4	75.79	30	31	1	
	東京築地	3	89.45	62	62	0	東京町田東	3	72.42	29	30	1	
	東京日本橋中央	3	85.26	54	54	0	東京八王子北	3	88.89	31	31	0	
	東京中央	4	81.64	230	238	8	東京立川	4	96.78	89	92	3	
	東京日本橋西	4	86.31	48	48	0	東京小金井	4	100.00	31	30	-1	
	東京銀座新	3	81.62	74	74	0	東京国分寺	4	93.34	50	52	2	
京浜グループ	東京シティ日本橋	4	74.50	49	53	4	多摩東グループ	東京三鷹	4	92.90	42	42	0
	東京中央新	3	69.30	37	37	0		東京昭島	4	78.86	48	52	4
	東京羽田	4	83.46	44	45	1		東京国立	4	100.00	51	52	1
	東京大森	4	91.67	53	53	0		東京立川こぶし	4	87.13	81	82	1
	東京品川中央	4	86.05	56	57	1		東京井の頭	3	88.50	25	26	1
	東京田園調布	3	80.95	49	49	0		東京昭島中央	4	80.00	39	41	2
	東京蒲田	3	95.08	59	59	0		東京武蔵国分寺	3	88.54	52	52	0
	東京田園調布緑	4	81.13	23	23	0		東京小金井さくら	4	78.58	21	21	0
	東京品川	4	85.73	66	67	1		東京国立うめ	3	87.03	21	21	0
	東京大井	4	73.68	19	19	0		東京府中	4	77.09	64	64	0
	東京港南	4	68.42	19	19	0		東京調布	2	88.80	64	64	0
	東京大崎	3	92.79	36	37	1		東京多摩	4	75.70	23	24	1
	東京京浜	2	76.36	23	23	0		東京狛江	4	89.07	32	32	0
	東京マリーン	4	75.00	20	20	0		東京稲城	4	73.92	32	32	0
東京白金	3	79.60	31	31	0	東京武蔵府中	4	78.22	55	55	0		
東京高輪	3	85.33	29	30	1	東京たまがわ	4	82.54	25	26	1		
山の手東グループ	東京西	3	85.31	151	150	-1	東京多摩グリーン	4	80.20	36	37	1	
	東京城西	4	87.33	76	78	2	東京調布むらさき	4	83.13	82	83	1	
	東京西南	4	81.69	55	55	0	Guam	4	55.00	76	72	-4	
	東京原宿	4	80.83	29	31	2	Saipan	5	64.88	44	43	-1	
	東京杉並	4	75.00	40	41	1	Tumon Bay	5	44.04	94	92	-2	
	東京神宮	4	73.03	35	35	0	Northern Guam		—	35	35	0	
	東京恵比寿	3	73.90	94	97	3	Pohnpei		—	20	19	-1	
	東京広尾	4	81.00	24	25	1	Palau	5	75.00	15	15	0	
	東京渋谷	3	80.56	39	40	1	Guam-Sunrise	5	51.00	31	34	3	
	東京六本木	3	73.00	52	52	0	Truk Lagoon	5	82.00	12	11	-1	
山の手西グループ	東京世田谷	4	88.39	61	62	1	国内82クラブ計			4,351	4,411	60	
	東京目黒	4	85.38	49	48	-1	地区90クラブ計			4,678	4,732	54	
	東京成城	3	86.67	24	24	0	千代田グループ	80.04	多摩南グループ	84.21			
	東京世田谷南	4	82.00	94	93	-1	銀座・日本橋グループ	81.19	多摩中グループ	89.31			
	東京城南	2	68.00	27	30	3	京浜グループ	82.52	多摩東グループ	80.96			
	東京山の手	4	82.31	67	65	-2	山の手東グループ	79.17	PBグループ	—			
	東京成城新	3	77.43	38	38	0	山の手西グループ	79.74					
	東京青丘	4	68.70	33	35	2			平均出席率	82.46			
	東京自由が丘	3	90.73	18	18	0				(PBGを除く)			
	東京世田谷中央	3	67.82	29	30	1				※PBグループの出席率については、10月25日現在未着です。次号に掲載予定です。			

編集後記

日頃、ガバナー月信・IT委員会へのご協力を心から感謝申し上げます。

月信・IT委員会に在して3年目に入りました。先日の編集会議が行われている同時刻に私は米山奨学生カウンセラーセミナーに参加していました。(久邇ガバナーも同席されていました。)とても充実したセミナーでありました。その中で(ガバナー月信8月号) 未来に向かって『拡大』のお話がありました。未来というキーワードから申しますと、月信・IT委員会に

おいては、ガバナー直属の機関として未来を見据え、ガバナーメッセージを会員皆様に公平にお伝えすることを主眼とし、紙面ベースとWEBとの連携を常に現プログラムを見つめ、贅肉をそぎ落としシンプルかつ読み易く公平なプログラムに構成されているようです。今や、メンバーは委員会というより一丸となった『チーム』になった感があります。未来に向け、更なる飛躍ができますようにご協力をお願い申し上げます。

2009-10年度ガバナー月信・IT委員会 委員 木村 清信 (東京中央RC)

国際ロータリー第2750地区 2009-10年 ガバナー 久邇 邦昭

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F 電話 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750 2009-10 Governor Kuniaki Kuni

KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行：ガバナー 久邇 邦昭(2009-10) © Kuniaki Kuni 2009

編集・制作：ガバナー月信・IT委員会委員長 田辺 克彦 副委員長(ガバナー月信担当) 成吉 徳

中野 博義 Andrew WONG 木村 清信 松田 美房 竹平 時彦 堀口 昇治 森本 行俊 浅見 省三 河村 勝久 坂場 一隆 渡邊 卓美

ガバナー月信・IT委員会副委員長(IT担当): 山見 真弘

ホームページアドレス

<http://www.ri2750.org/>